

2017 謹賀新年



着実な復興そして 魅力ある「まち」の創造 福島市議会議長 高木 克尚

市民の皆さま、明けましておめでとうございます。
昨年は、市議会に対しまして格別なるご理解と、ご支援を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。
本市におきましては、東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故からの復興と、安心して生活できる誇りある「ふるさと福島」を将来に引き継ぐため、さまざまな対策に総力をあげて取り組んでおります。
しかし、今もなお市民生活の多方面に影響が残るとともに、風評についても払拭されたとは言えない状況であり、昨年策定した「総合計画 後期基本計画」のもと、重点施策と位置付けている子育て支援の推進や産業の振興と併せて、各種施策に引き続き取り組んでいるところですので、市民の代表であります市議会といたしましては、地域の先頭に立ち、皆さま

「住んでよかったと感じられる活力あふれるまち」づくりの推進に全力で取り組んでまいります。
また、議会の基本理念を定めた「議会基本条例」のもと、市民の皆さまの声を行政に反映するため議会報告会などを開催し、より一層分かりやすく、開かれた議会運営を行い、市民の皆さまの負託に応えられるよう努めてまいります。
新しい年を迎え私も市議会は、本市の速やかな復興と市民福祉の向上のため、その役割と責任の重さを自覚し、市議会のさらなる改革に取り組み、本市を魅力ある「まち」とするため全力で取り組んでまいりますので、本年も変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。
今年一年が、市民の皆さまにとりまして健康で幸せな年でありませう、心からお祈り申し上げます、新年のごあいさつといたします。



みんなが誇れる 県都ふくしまの創造 福島市長 小林 香

明けましておめでとうございます。
昨年は、「市民主役の市政」を基本に、着実な復興と安心して生活できる環境を取り戻すとともに、新たな飛躍に向け、市議会、産業界などと一体となって、県立医科大学および福島大学の新学部誘致や国際会議の開催、また、県北地域と飯館村、県境を越えた白石市を含めた圏域の連携強化に向けた事業への着手などを実現させることができました。
迎えた本年は、市制施行110周年の節目の年となります。先人が培ってきた歴史や文化、魅力などを再認識し、人口減少・少子化対策と地域創生に全力で取り組んでまいります。
また、東北中央自動車道福島大笹生インターチェンジ周辺に新たな工業団地を整備し、雇用の確保につなげるとともに、中心市街地では、福島駅前通りリニューアルや県立医科大学新学部建設などを支援し、

にぎわい創出と交流人口の拡大を図ってまいります。
2020年東京オリンピック・パラリンピック関連では、スイス連邦を相手国とするホストタウンが決定しました。引き続き、野球・ソフトボール競技の市内での開催誘致へ取り組みを進めてまいります。復興の姿を世界にPRできる絶好の機会であり、事前合宿の誘致などを含め、最大限の準備を進めてまいります。また、名誉市民である古閑裕而・金子夫妻のNHK朝の連続テレビ小説の実現に向け、官民一体となって取り組んでまいります。
これらの取り組みを市民の皆さまとともに進め、住んで良かったと感じられる「みんなが誇れる県都ふくしまの創造」を確かなものとしてまいります。
本年が皆さまにとりまして、健康で希望に満ちた幸せな年でありませう心からご祈念申し上げます、新年のごあいさつといたします。